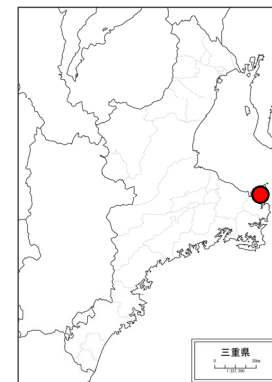


34.【陸域：研究所】 漁港施設用地を活用した水産研究所の機能移転・拡充：小浜漁港（三重県鳥羽市）

概要

- 鳥羽市は、「藻類研究を核とした多分野連携による鳥羽市水産研究所機能強化計画」を策定し、小浜漁港の用地に鳥羽市水産研究所を整備。
- 研究所、漁協、県、大学等が連携して藻類研究を推進し、効率的で安定した藻類の生産体制を構築することで、漁業者の所得や生産性向上等による水産業振興のほか、多分野連携による地域の活性化を図ることとしている。



背景

- ・ 小浜漁港が位置する鳥羽湾は、ワカメやクロノリを始めとした海藻類の一大生産地であり、鳥羽市水産研究所、漁協、地域住民等が連携した海藻種苗の投入等による藻場保全の取組が盛んな地域。
- ・ 一方、漁業者の減少（約50年で161人減）により漁港の利用が減少し、一部の漁港施設に余裕が発生。
- ・ また、水産業従業者の高齢化が深刻であるため、より効率的で安定した生産体制を見出すことが喫緊の課題。

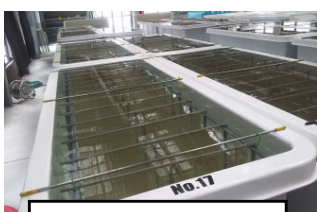
有効活用の内容

- ・ 余裕が生じた漁港施設用地に研究施設を整備し、鳥羽市が坂手島に有する「鳥羽市水産研究所」の一部機能を移転・拡充を図る。
- ・ 水産物の付加価値向上のための高品質な種苗生産と種苗販売による生産量・取扱量の増加並びに生産者所得の下支え及び研究機関等に所属する広範な知見を有する専門家による有用技術の提供、多分野連携による関係人口の増加を目指す。

活用した漁港施設	漁港施設用地（野積場）
実施時期	令和2年3月27日竣工、同年4月1日供用開始
実施主体	鳥羽市
活用した事業	地方創生拠点整備交付金
実施した手続き	財産処分（目的外使用）、漁港施設用地利用計画変更



ヒジキ養殖実証実験



藻類種苗生産



期待される効果

- ・ 水産業振興： 藻類養殖の拡大による漁業者の所得向上、新たな加工品の開発
- ・ 観光振興： 海藻類をテーマとした関係・交流人口の拡大
- ・ 多分野連携： 海藻類を活用した健康、美容商品の開発、海洋教育の場の提供
- ・ 視察及び海洋教育における現場実習などの受入総数： 48件（市内外の学校等）

竣工した鳥羽市水産研究所



教育旅行の視察受入